

5. まとめ（個人小型機及び滑空機の事故防止に向けて）

今回、個人小型機及び滑空機の事故について調べたところ、事故機の操縦者は、飛行時間が 301～1000 時間の操縦者が 22 人となっており、1001 時間以上の経験がある操縦者も 20 人となっています。また年齢別では 50 代と 60 代が合わせて 34 人で、全体の約 6 割を占めています。

飛行時間が 301～1000 時間といえば、ライセンスの取得後に慣熟飛行やレジャー等で操縦経験を積み、操縦技術に自信がついてきた頃かもしれません。

一方、原因分類の状況からは、事故原因の多くに、思い込みやうっかりミス、技量に関する認識と実態の相違といった人的要因があることがわかります。操縦者の自信過剰が事故の原因に関与した事例もありました。

インタビューでも危険な状況について、「まだ大丈夫」ではなく、自戒することが重要との指摘がありました。どんなに経験を積んでいても、無理や無謀な操縦は禁物です。

ちょっとした気の緩みや勘違い、思い違いは常にあり得るものと認識し、定期点検や飛行前点検等の確認を慎重かつ丁寧に行い、また飛行中に少しでも異常や不安を感じたら無理をせず、できるだけ早めの対処を心がけることが、事故の防止につながるのではないのでしょうか。

最後に、今回快くインタビューをお引き受け頂きました、一般社団法人日本飛行連盟及び特定非営利活動法人 AOPA-JAPAN（日本オーナーパイロット協会）の皆様には厚く御礼申し上げますとともに、今後の更なる発展をお祈り申し上げます。

事故防止分析官のひとこと

本号は、個人小型機及び滑空機の事故が多いため、作成しました。操縦者それぞれの経験をみると、ある程度飛行時間の多い方による事故が発生しています。そして、愛好家団体の方々にお話を伺うと、操縦に慣れてきた人が要注意であり、自信過剰にならず、情報や経験を仲間と共有することが重要であることを口をそろえて語っていました。

もし、近くに仲間がいない方は安全講習会などに参加してみても如何でしょうか。同じ趣味の仲間を増やすことができれば、安全運航と飛行の楽しみと両方に資することになると思います。

「運輸安全委員会ダイジェスト」について
のご意見や、出前講座のご依頼をお待ちし
ております。

〒100-8918

東京都千代田区霞が関 2-1-2

運輸安全委員会事務局

担当：参事官付 事故防止分析官

TEL 03-5253-8111 (内線 54236)

FAX 03-5253-1680

URL <http://www.mlit.go.jp/jtsb/index.html>

e-mail：hqt-jtsb_analysis@ml.mlit.go.jp